NiiGATA UNIVERSITY 文部科学省 地(知)の拠点

2019 年度新潟大学 COC＋社会人学び直し WG 高度実践看護師等育成事業

新潟地域看護研究会　NEWS LETTER

vol.3 2019.3

第３回新潟地域看護研究会を開催しました

テーマ　事例検討をとおして保健師固有の支援技術を学ぼう！

2019 年 2 月 2 日（土）　場所：新潟大学医学部保健学科

社会人学び直し WG 「高度実践看護師等育成事業」では、社会人の学び直しの機会を提供し、新潟県における高度実践看護師等の地域包括ケアを担う保健医療人材の育成と定着化を図るとともに、雇用の創出や拡大を目的に、高度実践看護師等の啓発普及、人材育成プログラムの検討・開発等を行っています。

今回は、大学院での研究成果の還元と、高度な実践能力をもつ地域看護専門看護師（以下、地域看護 CNS）の活動の普及を目的として、第３回新潟地域看護研究会を開催しました。

地域看護ＣＮＳからのコンサルテーションによる事例検討　10：30～12：45

「結核発症後の状況変化に戸惑う本人・家族への意思決定支援」

事例提供者：柏崎地域振興局健康福祉部地域保健課　保健師　本間あやの

助言者：新潟県総務管理部人事課　主査(保健師)　室岡真樹　(地域看護 CNS)

ファシリテーター：新潟大学大学院保健学研究科　教授　小林恵子

本間あやの保健師さんからは、結核の発症による急激な生活の変化に本人や家族が戸惑い、今後の療養環境に見通しを持てない状況の中で、本人や家族の思いを十分に共有できないまま医療機関の意向を中心に療養先が決定されていく、A さんの事例が提供されました。事例を素材に、地域看護 CNS のコンサルテーションを得ながら支援について具体的な検討が進められました。

結核医療体制の変更や病院の方針により、今後の療養先に関する十分な検討ができないまま退院となっていく状況に、保健所保健師として、本人や家族の思いを関係機関で共有し、協力しながら支援できていないのではないかと葛藤を感じていました。

検討の結果、対象者の全体像として、家に帰りたいと考える本人、在宅介護への不安をもち入院・入所が望ましいと考える家族、退院を進めたい病院、在宅サービスの調整を進めるケアマネとの間に価値観（意見）の対立が生じていることが明らかになりました。そして、家族は在宅での生活がイメージできないために、在宅生活を躊躇している可能性があることを確認しました。

本人の今後のケア計画について考える際は、本人の人生についてよく理解することが基礎となり、本人の意思が確認できない場合には、患者にとって何が最善であるかについて家族と十分に話し合い、最善の方針をとることが重要となります（清水, 2015）。そのため、清水の「情報共有－合意モデル」の活用により本人の背景や思いを深く理解しながら、関係者で情報を共有し

ながら本人・家族の意思決定支援を行っていくことが重要であることを確認しました。また、合意形成を図る方法の一つとして、地域看護 CNS から、５つの倫理原則（自立尊重・善行・無害・正義（公平性）・誠実忠誠）が紹介され、枠組みを基に現在の状況や今後の対応策を確認していくことで、関係者が客観的な視点で支援方針を共有することができることを確認しました。

（文献）清水哲郎．本人・家族の意思決定を支える―治療方針選択から将来に向けての心積もりまで―．医療と社会，25（1）；35-48，2015.

○事例を提供して

ひとつの事例を、ここまで丁寧に検討していただいたことは初めてで、大変貴重な経験となりました。本人・家族の思いをじっくり聴ける保健師の強みを今後も大切にし、周囲の支援者と倫理原則の枠組みを活用しながら、十分に支援方針を話し合う実践を積み重ねていくことで、本人・家族の意思決定支援に繋げていきたいです。（本間あやの）

参加者・アンケート結果

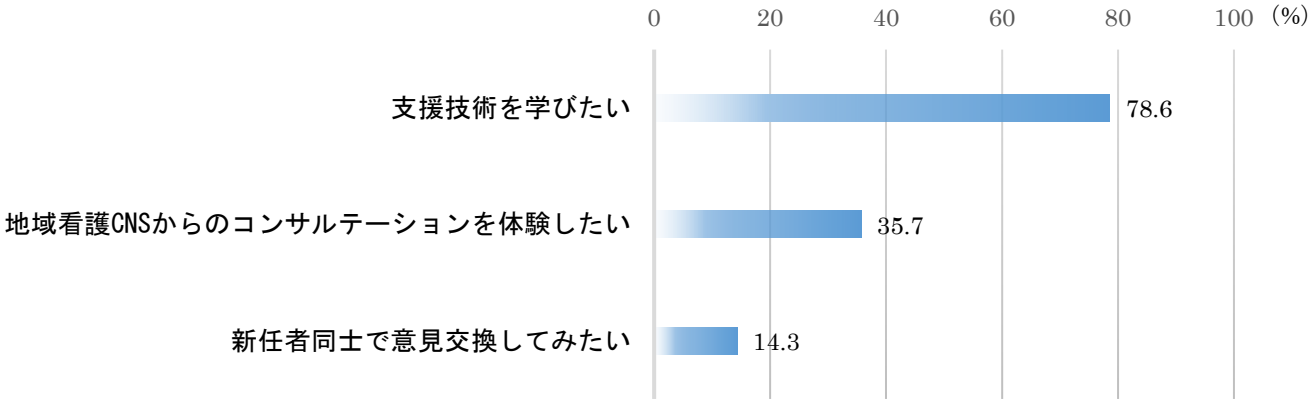
１．参加者　検討メンバー（保健師）16 名、オブザーバー（学生）6 名、教員 5 名　計 27 名

参加者の内訳

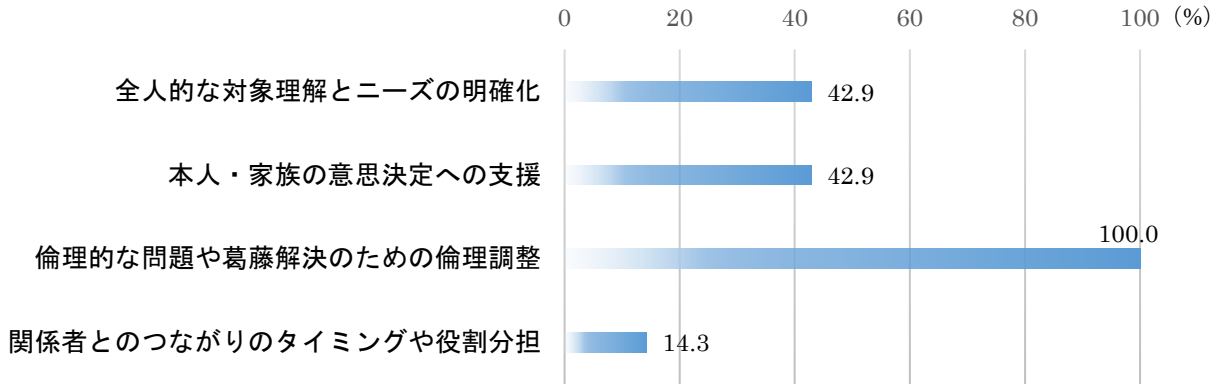
所　属	人数（名）
新潟県	5
新潟市	3
市町村（新潟市を除く）	8
学部学生	6
新潟大学教員	5
計	27

２．アンケート結果（検討メンバーのみ・一部抜粋）

１）参加動機（複数回答）　（n=14）



２）事例検討を通しての気づきや学び（複数回答）　（n=14）



３）新潟地域看護研究会にまた参加したいと思うか

「とても思う」58.3%、「思う」41.7%と全員が継続参加を希望していた（n=12）。

事例検討を通しての具体的な気づきや学び（抜粋）

〇全人的対象理解とニーズの明確化

・本人の思いが聞けない状況になって、家族の思いを主にケースワークしてしまうことがあるが、本人の本当のニーズがどこにあるか、把握できるタイミングをのがさず、把握できる相手を見つけていくことが大切だと思った。その思いを妨げている要因をひとつひとつ解決したり、納得できる部分をみつけていけるよう関わっていきたい。

・本人・家族のニーズをとらえることの大切さを改めて感じた。複数の関係者と支援をすすめるなかで、それぞれの思いや考えを整理していくことの重要性について学んだ。

・ケースに関わる時、どうしても無理なこと・できないことに目が行ってしまい、支援者がしやすいことを対象者にすすめてしまう時がある。改めて、本人の気持ち・意思が大切なことがわかった。

〇意思決定における価値観の対立と倫理調整

・ご本人、家族、関係職種のそれぞれに考えがある中で、意志決定支援として、どうなることが良い選択になるのか、考えて話し合うことが重要なことだと改めてわかった。

・倫理調整についてお聞きし、はっと気づかされたように思う。対象者・家族のニーズを把握し、落としどころを見つける事は難しいが、必要なことだと感じる。今後の支援に今回の学びを生かしていきたい。

・倫理調整の可視化のツールなど、全く知らなかったので、勉強になった。倫理について、この機会をきっかけに学び習そうと思った。１つのことには短所、長所の両面があるので、それをひとつひとつ考えることの大切さに気づいた。

〇関係機関との連携

・他職種連携の難しさも感じつつ、同じ方向を向いて支援できるようになったときの心強さも感じることができた。

・自分１人で関わることが不安だったが、関係者の発掘、声かけをしていきたいと思った。

第３回新潟地域看護研究会を終えて

複数の関係者が複雑に絡み合う事例に関わることが多い背景には、ひとりの対象者に様々な健康課題があることもひとつの要因ではないでしょうか。健康課題を丁寧にみていくことで、どのタイミングで、どこを優先して関わる必要があるかがみえてくると思います。

今回の事例は「結核」という切り口でしたが、先を見通したとき「認知症」「介護が必要な高齢者」という課題への対応が予測されました。課題によって本人・家族に前面に関わる専門職・支援者は変わってきますし、保健師の役割・動き方も変わります。しかし、健康課題に解決にむけたよりよい支援をチームで展開するために、誰かが当事者である本人・家族のニーズをつかみ、伝え、調整する必要があります。そこを担えるのが「保健師」の専門性をもった活動のひとつではないでしょうか。

本人・家族のニーズをつかみ寄り添ううえで、悩みや葛藤も生じるかもしれませんが、その思いは保健師の成長にかけがえのない経験になるはずです。そんな時は抱え込まず相談、そして今回のような検討の機会をつかってステップアップしていけるとよいと思います。

助言者　室岡 真樹（地域看護ＣＮＳ）

事例提供者の本間あやのさんからは、結核の疾患管理に留まらず、結核発症・入院を機に認知症や要介護状態と急速に変化していく状況に戸惑う家族に常に寄り添いながら、今後の支援を関係者と検討されておられる事例を提供していただきました。まさに保健師の専門性を学べる貴重な事例でした。

大変丁寧なかかわりをされていることを参加者で共有したのち、本間さん自身が抱えている葛藤に着目して検討を行いました。結核の治療終了後の療養先の意思決定をどのように支援していくかについて、地域看護 CNS の室岡さんから倫理調整の枠組みを紹介していただき、思考の整理の仕方を学びました。その際、意思を表明できない高齢患者ご本人の意思確認をどのようにするか、家族が在宅は困難であると感じているその思いを深く聞くことの大切さなどを学びました。

保健師の専門性として「(疾患に留まらず）ホリスティック（全人的）に対象を理解した支援を行う」ことや、「対象・家族の意思決定を支援する」ことなどを確認できたと思います。

私たちは意思決定をするなかで、しばしば「意見の対立」に直面します。「意見の対立」というと感情的な話になりますが、「価値観の対立」と置き換えると、それがなぜ起こっているのか、どのような対立なのかが見えやすくなってきます。今回紹介した枠組みが少し難しいと感じられた方は、選択肢ごとにメリットとデメリットを整理する方法にもチャレンジしてください。

寒い中、遠方より多くの方が参加してくださり、本当にありがとうございました。

これからも事例検討をとおして、保健師の専門性をとは何か、固有の支援技術とは何かを一緒に探求していきたいと思います。

ファシリテーター　小林 恵子

次年度も、２回の新潟地域看護研究会の開催を計画しています。皆様、是非ご参加ください。

小林恵子・齋藤智子・成田太一・堀田かおり・八尾坂志保

主催：新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域
共催：新潟県　公益社団法人新潟県看護協会
　　全国保健師長会新潟県支部　新潟県職員保健師会
後援：新潟市　全国保健師長会新潟市支部

新潟地域看護研究会
〒951-8518　新潟市中央区旭町通 2-746
新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域
TEL: 025-227-0944（担当：成田）
Mail: chiiki@clg.niigata-u.ac.jp